

# 金剛寶戒寺便

<https://www.kongaiji.jp>

令和元年十二月一日発行 第六十九号

檀信徒の皆さま、こんにちは。気がつけば師走。今年もあつと言う間に年末がやって来ました。

さて、十一月の講習会は「認知症の人と家族の会」より三浦恵子さんにお越し頂き「認知症の家族を看取った私の経験談」と題してお話をさせて頂きました。

三浦さんのお父さまは一つ質問をするとその返事を返してくれるような方だったそうです。学校の先生を勇退されてからも八十才まで水泳や囲碁、詩吟などに通う認知症とは縁遠い方でした。しかし八十才のお誕生日をひかえ、自動車免許の更新に出掛けた日に認知症が突然の様にやって来ました。夕方になっても帰って来ない自宅へ、佐伯のレッカー会社から「お父さまの運転している車が河川敷に落ち込んでいますので引き上げました。これから大分まで連れて行きますでしょうか？」との電話が入ったのです。

受け入れがたい事実にも動揺をしたのはお父さまだけでなく、ご家族全員でしたが、後日長谷川式認知症スケールでの検査結果では既にアルツハイマー型認知症の中期だったそうです。それからお亡くなりになるまでの約六年間を振り返り、時には涙ぐみながらお話をさせて頂きました。

認知症の人が取る周辺行動の一つに「徘徊」があります。今では徘徊という表現を使わない事を今回の講演で知りました。その理由は認知症患者の徘徊は意味もなくうろついているのではなく、何かしらの原因やきっかけがあり、本人なりの目的があつての行動だからです。三浦さんのお父さまにも同じ様な行動があつたそうですが、その訪れる先は過去に心おぼえのあつた場所ばかりだったそうです。そこで叔父様がお父様とご家族を乗せ、思い出の場所へとドライブへ連れて行ってくれるようになってからは、一人で歩き回る様なことは無くなったと教えてくれました。

認知症と家族の会は全国規模の団体で、一九八〇年の結成以来、会員は一万二千人にもなります。大分にも四百人の登録者があり、その多くは患者さんとご家族ですが、三浦さんの様に様々なサポートにまわってくださるスタッフもいらつしやいます。地域包括支援センターとは違った角度からアドバイスやケアを受けることができますので、関心のある方はホームページなどで調べてみて下さい。

特別伝道に参加された方々からお話を伺っていますと「元氣になった」「気分がスッキリとした」いったご感想が多いです。十二月は当山でも数珠繰りをしますので、ぜひ元氣をもらいに来て下さい。今年は始まりの時間を一時間早めて午後六時から行いますので、お間違えの無いようお願い致します。

日時 十二月二十一日（土曜日）十八時より  
場所 金剛宝戒寺 本堂に於いて  
「年納め千巻心経」

今年お葬式を出された方は初詣には行かれな  
いと思います。除夜の鐘について新年をお迎  
えしませんか？

日にち 十二月三十一日（火曜日）  
時間 二十三時四十五分ころから二時間位  
国重要文化財 ご本尊 大日如来 御開帳と  
除夜の鐘つき

新年も変わらずに講習会を続けて行きます。

日時 令和二年一月八日（水曜日）十四時から  
場所 金剛宝戒寺 本堂に  
講師 矢野大和さん  
演題 一期一笑く愚痴を言っても始まらない

私の今年の一年の目標は「笑顔」でした。余  
り変化が無かった様に感じられたかもしれま  
せんが、毎朝のお勤めで仏さまにお約束をし、  
一年間心掛けを致しました。そして多くの御  
利益も頂いたように感じています。沢山の  
方々と新たなご縁を頂き本堂に充実をした幸  
せな一年でした。特に小橋さまにはお墓まで  
の砂利道をアスファルト舗装して頂き、お寺  
もより良くなったと実感しております。本堂  
にありがとうございます。来る年が皆様にと  
ってこれまでで最高の一年となりますよう  
に大晦日から拜んで生きたいと思えます。来  
年もどうぞよろしくお願い致します。 合掌